WEEKLY 2025－2026

伊那ロータリークラブ

事務所　伊那市西町5016-2　℡(72)0077　例会日　毎週木曜日　会場くぬぎの杜　℡(78)1121
会長 小河節郎　幹事 鈴木正比古　会報委員長 八木択真　**第３０８７回 例会2026.1.15　No.1687**

UNITE FOR GOOD

Rotary 第2600地区　よいことのために手を取りあおう

ソ　ン　グ　君が代　奉仕の理想

四つのテスト　職業・社会奉仕委員会

会 長 談 話　小河節郎会長

皆さんこんにちは、今日は小正月、日本では明治の初めまで、月の満ち欠けを基準として、1年の長さを決めていました。小正月とは、旧暦の1月15日で、その年の最初の満月の日です。正月を（大正月）と呼ぶのに対し、満月はめでたいものとして、この日を小正月と呼び祝っていましたが。現在では、新暦の1月15日に祝う地域が多くなっています。

この日に行われる行事としては、「どんど焼き」が有名です。田んぼや神社などで、正月のしめ飾りや門松などを、大きな焚火を焚き、14日から15日の朝にかけ、願いを込めて燃やす火祭りです。この火で焼いた餅や団子を食べ、この煙を浴びるとその1年間は無病息災で過ごせるそうです。

小正月には、男子の「元服」が行われる日でありました。元服とは、奈良時代から明治まで、武士の男子が成人したことを表すために行った行事ですが、江戸時代には、庶民の間でも行われるようになりました。明治になると女子も含め成人の日となり、今日に至っています。

また、小正月は「女正月」とも言われ、正月の接客などで忙しかった女性をねぎらうために、地域によっては女性に変わり男性が家事をしたり、女性が実家に帰省する地域もありました。

今年の小正月は2月5日です。

誕　生　祝

小河節郎　出澤英則

結婚記念日祝

中川博司　竹腰哲夫

在　籍　祝

熊谷勝昌(34)　藤澤秀敬(31)
宮下金俊(31)　竹腰哲夫(31)
平出吉範(19)　唐澤洋祐(6)

幹 事 報 告　別紙をご覧ください

委員会報告【ロータリーの友】1月号紹介

職業奉仕月間　本郷一博副会長

横組み P2～RI会長メッセージ

会長は、職業奉仕月間を「専門性を持つ人々が集い、『世界でよいこと』をする力をたたえる機会」と位置づけている。職業奉仕の原点を再認識させる内容である。P5～職業奉仕月間の特集「日本が誇る工芸技術はいま」である。P12～特集 ロータリー談義」の後編では、「ロータリーに入って良かった点」として、役職を経験する中で行動や考え方が鍛えられ、仕事にも大いに役立ったという声が紹介されている。共通して語られているのは、「ロータリーに育ててもらった」という実感。

縦組み P2～徳武産業株式会社会長・十河孝男氏による「寄り添いの経営」が掲載されている。高齢者向けケアシューズ「あゆみシューズ」を製造・販売する同社は、左右サイズ違いの靴や片方のみの販売を開始し、業界の常識を覆してきた。現場の声に耳を傾け、失敗を重ねながらもニーズを形にしてきた姿勢は、職業奉仕の実践そのものである。

【伊那ロータリー杯】について

飯島松一青少年奉仕委員長より、2月7日(土)開催の伊那ロータリー杯の説明がされた。

出 席 報 告　会員数47名　内出席免除者15名　出席者27名　事前メーキャップ0名　出席率67.50%

ニコニコボックス

・小河節郎　今年1月に代表取締役を交代しました。新社長共よろしくお願いします。
・中山一郎　今月会社の代表を長女に替わりま

す。

・山田　益　新年例会ドタキャンしました。

・藤澤洋二　金さん信大農学部ご卒業おめでとうございます。4月から千葉大大学院で引き続き頑張って下さい。

・小林旬子　新年例会二次会にバイオレットをご利用いただきありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

・飯島松一　我が社の干支飾りをケーブルテレビさんが取材して下さいました。

・桑沢諭司　本日卓話をさせていただきます。

・在籍祝

会 員 卓 話

長野県信用組合　伊那支店長　桑沢諭司会員

演題−「私の履歴書」

私は昭和57年12月生まれの43歳で、令和7年7月より長野県信用組合伊那支店長として当地に赴任いたしました。家族は、妻と13歳になる中学1年生の長男、9歳になる小学3年生の長女の4人で、現在は伊那市内に家族全員で暮らしております。

出身は上伊那郡箕輪町で、大学進学までは地元で過ごしました。自然に囲まれ、人と人との距離が近い環境の中で育ったことは、現在の私の価値観や仕事観の礎になっていると感じております。愛知県内の大学に進学し、初めて地元を離れて生活する中で、改めて故郷・上伊那の良さを実感するようになりました。

父は会社員、母は元伊那信用金庫職員という、ごく普通の家庭に育ちました。幼少期から特別な教育を受けたわけではありませんが、「誠実であれ」「人の役に立つ仕事をしなさい」という教えは、折に触れて両親から伝えられてきました。私の名前である「諭司」には、「人を教え導く」「教えを司る」という意味が込められており、その思いから、教師という道を勧められた時期もありました。

一方で、私の人生に大きな影響を与えたのが、スポーツ、特に陸上競技との出会いでした。中学時代に長距離走を始め、走ることの苦しさと同時に、努力を積み重ねることで結果が出る喜びを知りました。この経験は、物事から逃げずに向き合う姿勢や、最後までやり抜く力を養ってくれたと感じております。

陸上競技では、目標としていた全日本大学駅伝への出走も叶い、大学4年時には長野県縦断駅伝において上伊那代表として選出されました。伊那谷を走り抜けた経験は、今でも鮮明に記憶に残っています。アンカーとして出場し、飯田合同庁舎目前で先頭の長野市を逆転し、2日目の優勝を飾ることができ、翌日の信濃毎日新聞の一面を飾ったことも、今では良き思い出となっております。

ただ、走ることへの情熱に青春のすべてを注いできた結果、自身の進路は陸上競技を軸に選択されたものとなり、今振り返ると、多少の後悔が残るのも正直な心境です。

陸上競技一色の学生生活を送る中で、人生の大きな転機となったのが就職活動でした。当時の私の強みは、「努力」「根性」「精神力」といった言葉に象徴されるもので、厳しい環境に身を置き、自らを鍛えることができる点にありました。文系出身で選択肢が限られていたこと、また、教師の道を選ばなかったことへの葛藤もありましたが、最終的に、厳しさと責任を伴う金融機関という仕事を志すことを決意しました。

就職活動は県内金融機関を中心に行い、まず長野銀行から内定をいただきました。当時の採用環境は就職氷河期であり、面接では厳しい指摘を受けることも多々ありましたが、ある面接で人事部長からかけていただいた一言、その後の最終面接の場でも頭取に対して「彼は大丈夫です」と後押しいただけた言葉は、今でも鮮明に覚えております。当時の長野銀行人事部長には、今なお感謝の念に堪えません。

その後、長野県信用組合の最終面接にも進み、内定をいただきました。採用試験の過程で感じた職員の温かい雰囲気や、「定年まで勤める」という視点で両社の社風を熟考した結果、県信組への入組を決断いたしました。振り返れば、当時の選択次第では、私の人生は大きく変わっていたのかもしれないと感じております。

入組後は、駒ヶ根支店、飯田支店、中越支店、人事部、箕輪支店の新設など、さまざまな業務を経験して参りました。再び初任地である駒ヶ根支店に支店長として配属された際には、初心に立ち返る思いで業務に取り組みました。3年間駒ヶ根支店長を務め、現在の伊那支店に赴任して参りましたので、直近8年間は地元上伊那で勤務し、地区全域を網羅できたことは、非常に幸せなことだと実感しております。

地域金融機関として、地域とともに歩み、地域の発展を金融面から支えることが私たちの使命であると考えております。金融業務を通じて、地域の皆さまに信頼され、必要とされる存在であり続けたいと強く願っております。また、伊那ロータリークラブの一員として活動させていただけることを大変光栄に感じており、このご縁を大切にしながら、地域貢献に努めるとともに、私自身も成長して参りたいと存じます。

本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。